

第2次士別市まちづくり総合計画の基本構想(案)及び基本計画(案) に対するパブリックコメント実施結果

第2次士別市まちづくり総合計画の基本構想(案)及び基本計画(案)について、士別市パブリックコメント制度実施要綱に基づき市民意見を募集したところ、1名の方からご意見をいただきました。

寄せられたご意見の内容及びご意見に対する市（行政）としての考え方を次のとおり公表します。

① パブリックコメントの実施状況

- (1) 募集期間 令和7年12月15日から令和8年1月14日午後5時まで
- (2) 意見提出者数 1名
- (3) 提出方法 WEB入力
- (4) 担当部署 総務部企画課

No.	寄せられた意見	市の考え方
1	<p>まちづくり基本条例の基本原則の「市民自治」「情報共有」を基本として、第2次士別市まちづくり総合計画を策定してください。</p> <p>これまで実施してきた地区別計画の検証・見直しのワークショップがなくなったことから、今後、市民一人ひとりの声をまちづくりにどう活かしていくか問われています。</p>	<p>市では、まちづくり基本条例に基づき、市民や関係団体よの意見交換など、多くの市民参画による計画づくりを進めています。</p> <p>また、「地域力」を高めながら市民、議会、行政が連携を図り「住んで良かった」と思えるまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>「市民自治」「情報共有」については、まちづくりの原則と捉えていますので、引き続き、広報・広聴の充実に努めながら市民参画によるまちづくりを推進してまいります。</p> <p>基本施策「市民活動・地域づくりへの支援」の取り組みに、市民と行政との対話による意見交換の機会を設ける旨を追記いたします。</p>
2	<p>関係人口づくり、2地域居住を進めるためには、住む場所を確保することが必要です。民家の空き家対策を具体的にすすめると同時に、使用頻度が減っている地域の会館の有効活用、使わなくなった施設をゲストハウスにするなど多面的に検討してはいかがでしょうか。</p>	<p>基本施策「移住定住の促進と関係人口の創出」にて記載のとおり、市では関係団体とも連携を強化しながら移住相談の体制強化を図るとともに、各地域の魅力や情報発信に努めることとしています。</p> <p>空家については、住居を必要としている方に有効に活用いただけるよう、移住ナビデスク等の情報発信に努めます。</p> <p>公共施設等の宿泊利用については、制度上難しい課題もありますので、施設の有効活用を引き続き検討してまいります。</p>

3	<p>道北観光連盟「道北ガイド」に日向温泉と「日向森林公園キャンプ場」が掲載されています。日向温泉・スキー場と一体で日向森林公園を土別市の共有財産として方策を希求してください。</p> <p>キャンプだけでなく、日向温泉の近くにトレーラーハウスなどがあると幅広い年齢層が利用しやすくなると思います。</p> <p>また、インターネットの観光ガイド「じゃらん」に日向森林公園が紹介されていました。</p> <p>ちなみに、ニトリ北海道応援基金による「日向思い出の森 植樹祭」が平成23年に実施されていました。経過はわかりませんが、まちづくりと企業の社会的貢献の位置づけから、ニトリなど企業や諸団体へ働きかけをしたことに関心を持ちました。</p>	<p>日向温泉や日向スキー場、日向森林公園は、本市の財産です。</p> <p>市では、日向温泉の近くにトレーラーハウスを設置する計画はありませんが、日向温泉の指定管理者等から設置の意向があった場合は、誘客への効果などを踏まえ検討を行います。</p> <p>ニトリによる植樹については、行政と地域が連携して、助成を受けたものです。</p> <p>引き続き、公園の維持管理に努めます。</p>
4	<p>名寄市なども参考に「持続可能な公共交通」について検証・具体化してください。全国的に人気のあるモノコックバスの復活を強く望むとともに、宗谷本線活性化推進協議会を中心に沿線自治体と連携するとりくみを大いに展開してください。</p> <p>さらに、天塩川流域の自治体・博物館との共同企画、鉄道・バス・自転車・自動車・ウォーキング・釣り・自然、歴史（武四郎や屯田兵など郷土史、多寄遺跡など縄文文化）とアイヌ文化・日向神代神楽などを組み合わせて「ツアー」が実施できれば交流人口がかなり増えると思います。</p>	<p>公共交通のあり方については、市、交通事業者、関係団体等で構成する「地域公共交通活性化協議会」で検証、検討を進めています。</p> <p>令和8年度からは、新たに「土別市地域公共交通計画」の策定し、「持続可能な公共交通」の実現に向け、取り組みを進めていきます。</p> <p>鉄道については、宗谷本線活性化推進協議会を中心に沿線自治体と連携を図りつつ鉄道の存続に努めてまいります。</p> <p>（モノコックバスは企業の資産であり、車庫に保管、復旧費用を試算していることを確認しています）</p> <p>天塩川流域の自治体では、松浦武四郎の功績を基に、ツアーやシンポジウムの開催など、連携した取り組みを進めてきています。引き続き、北海道や近隣の自治体と連携を図りつつ、地域の魅力発信に努めてまいります。</p>
5	<p>大規模災害に備え、「防災対策」は急務です。1月になり宗谷地方南部の地震が増え、危機感をもっています。</p> <p>私は東日本大震災でコンビニとスーパー</p>	<p>防災については、行政における準備はもとより、市民の防災意識の高揚や自主防災組織の育成など、自助・共助の取り組みを促進することが重要です。</p>

	<p>一の食料が一気になくなった経験をしています。食料の備蓄品の整備も重要ですが限界もあります。新鮮な農産物がたくさんとれる土別の優位性を生かし、食の安全&市民が自由につくれる加工場があると安心です。</p> <p>地震など大規模災害対策活動の拠点としても 農畜産加工体験交流工房「の一む」の活用も視野に入れる必要があると思います。</p>	<p>この間、災害時の対応力を強化するため、自主防災組織の立ち上げや地域での防災訓練、関係機関との災害協定の締結など、防災力の向上に向けた取り組みを促進してきました。</p> <p>の一むは、経年劣化による設備等の更新が困難であることから、令和9年度末で機能を朝日町の農産加工実習施設へ統合する予定です。</p> <p>市では「土別市災害時備蓄計画」に基づき、食糧や日用品等の確保に努めます。</p>
6	<p>「公共施設の最適化」について</p> <p>大自然と雪に囲まれた土別市は大好きです。ウィンタースポーツを地元の市民が日常的に楽しんでこそ、関係人口が増えると思っています。</p> <p>次世代の未来のために、『何を残し、何を見直すべきか』を冷静に判断すべき時期であることは理解できます。だからこそ、市民の立場にたった議論の積み重ねを期待します。</p>	<p>公共施設の最適化については、土別市公共施設マネジメント基本計画の第2期（令和8～15年度）がスタートすることから、計画に基づく管理や見直し等を行いながら「最適化」「効率化」「長寿命化」の視点で取り組みを推進します。</p> <p>また、第2期中に施設のあり方を検討する施設については、市民や利用団体と協議を重ねるなかで、ていねいな説明に努めます。</p>